津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2023.6.30
第１４号

はじめに

小鳥山中世墓（ことりやまちゅうせいぼ）は、一志町小山（おやま）地区の西側にある丘陵（小鳥山）の、標高 140mほどの尾根上にあります。今回発見された遺跡（埋蔵文化財）は、いずれも地表に石組みが見えている状況で、付近の自然探索をしていた小学6年生と3年生（当時）の兄弟が発見したものです。

発見から報告、発掘に至る経緯

最初の発見者は、地元の小山地区に住む兄弟です。普段から遊びを兼ね近所で自然探索を行っていました。令和4年1月上旬、小鳥山の少し高まった所で石組みを見つけ、不思議に思って石を外すとその下に壺（つぼ）が埋まっているのに気付き、近くの石組みでも鏡を見つけました。同行していた指導者の適切な判断もあって、写真を撮ってそのまま埋め戻し、後日知り合いであった三重県埋蔵文化財センター職員に発見の連絡をしました。

県からの連絡を受けた津市教育委員会生涯学習課では、発見時の写真などから判断して出土遺物の中には銅鏡（和鏡）や鉄製品のほか中世の壺などがあることを確認し、これらは中世墓もしくは経塚（きょうづか）と、それに伴う副葬品（ふくそうひん）であると判断しました。

そして、これらの遺物（特に金属製品）は、そのままでは劣化が進んでしまうおそれがあることから、文化財として適切に保護していくために、6月18日に発掘調査を行いました。

調査にあたっては、土地所有者である小山区に当該地の発掘の承諾と、出土遺物を文化財として取り扱うことの同意をいただくなど、地元の皆様の御理解のもとで進めることができました。深く感謝申し上げます。

周辺地形図（国土地理院　1:25,000 地形図「大仰」より）

調査の概要

発掘調査は、遺跡の正確な場所を記録するため、尾根上に測量基準点を設定し、2か所の石組みの図面を作りました。さらに掘り進めていくと、兄弟からの連絡どおり、壺、蓋（ふた）などの陶磁器や鉄刀、銅鏡などが出土しました。これらを教育委員会に持ち帰り、保護のための手続きをしました。

埋納坑が見つかった尾根上の場所

周囲に比べてマウンド状でやや高くなっている

GPSを活用した測量基準点の設定

発掘調査では2つの穴が見つかりました。これらは、死者を葬った墓か、お経を地中に埋めた経塚と考えられます。峻別が難しいので、壺などを埋めた穴を「埋納坑」（まいのうこう）と呼ぶことにします。

【埋納坑1】 集石の下に渥美（あつみ）産の壺があり、壺の外で銅鏡と鉄刀が見つかりました。壺の上に蓋として使用されたと考えられる陶器も見つ

埋納坑1の調査風景

壺の周囲の土を丁寧に取り除く

埋納坑1　渥美産四耳壺の出土状況

かりました。

【埋納坑2】 埋納坑1から5mほど東に集石があり、その下から銅鏡が見つかりました。鏡のほかには遺物は発見されませんでした。

出土遺物

【壺】 埋納坑1から見つかりました。高さ 39 ㎝、口の直径 19 ㎝ほどの大きな壺です。4方向に「耳」と呼ばれる突起がありますが、発見された時には口の部分や耳は折れていました。壺の上のほうに平行線が三本、三角や波のような模様があります。平安時代の末ごろ(12 世紀)に愛知県の渥美半島で焼かれたものです。発掘調査で、口の部分の破片が見つかり、ほぼ完全な形に復元することができました。

　壺の中には土が入っていました。入っていた土は教育委員会に持ち帰り、骨やお経のかけらがないかを調べましたが、残念ながら残っていませんでした。

【蓋】 埋納坑1から見つかりました。高さ 3.6 ㎝、口径 20 ㎝ほどの陶器です。壺の蓋として使われていました。この蓋も渥美半島で焼かれたものと思われます。蓋も割れていましたが、破片が見つかり、復元することができました。

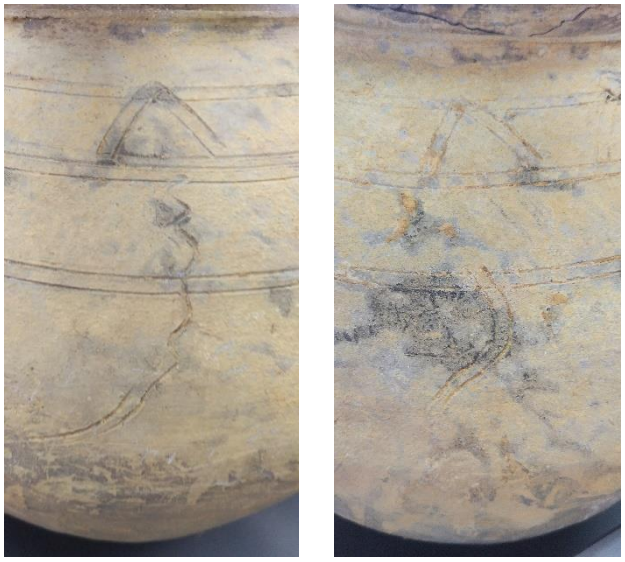
【白磁碗(はくじわん)】 埋納坑1から見つかりました。中国製の磁器です。下の部分だけが見つかり、上の部分の破片は見つかりませんでした。

【鉄刀】 埋納坑1から見つかりました。長さ約 32 ㎝の刀です。壺の下に埋められていました。穴に収めるために曲げられていました。

【銅鏡1】 埋納坑1から見つかりました。直径約 12 ㎝の鏡です。和鏡と呼ばれる日本製の鏡で、裏には菊の花と二羽の鳥の模様が描かれていて、「菊花双鳥鏡」(きくかそうちょうきょう)と呼んでいます。刀と同じように、穴に収めるために曲げられていました。

【銅鏡2】 埋納坑2から見つかりました。直径 10.3 ㎝の鏡です。これも和鏡で、鏡の裏には、萩と二羽の鳥の模様が描かれていて、「萩双鳥鏡」(はぎそうちょうきょう)と呼んでいます。

出土した直後の渥美産の壺



壺の表面に描かれたヘラ描き模様

和鏡1と鉄刀の出土状況

菊花双鳥鏡

萩双鳥鏡

鉄刀

まとめ

今回の発掘調査では、石組みの下に壺や鏡、刀などを収めた2つの穴が見つかりました。壺の年代から、これらが作られたのは平安時代の末（12世紀）ごろであると考えられます。

これらを埋めたのは、火葬の習俗がある、あるいはお経を埋める行為を行うような知識人で、当時の高級品であった鏡や白磁碗を持っていた人です。

このようなことから、小鳥山中世墓（経塚）は、平安時代末ごろの一志地域にいた有力者が作ったものと考えられます。

今回の発掘調査は、地元に住む兄弟の偶然の発見によりはじまりました。素晴らしかったのは遺跡を見つけた後の兄弟や指導者、地元の方々の行動です。皆様のご協力のおかげで、遺跡や遺物をしっかりと守り、将来に伝えることができました。

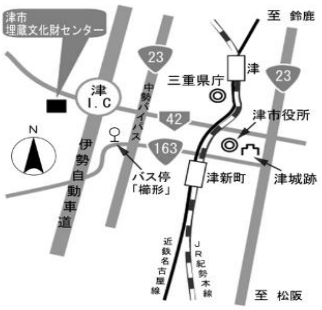
まいぶん津　第14号

発 行 日：令和５年６月３０日

編集発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058　三重県津市安東町 1225

TEL　059-229-0210　FAX　059-229-4601



2015 年からお休みをいただいていた「まいぶん津」ですが、今回の出来事を機会に復刊することになりました。今後ともよろしくお願いします。